

01 THU	
02 FRI	
03 SAT	
04 SUN	
05 MON	■入学式
06 TUE	■オリエンテーション I
07 WED	■授業開始 ■阿蘇研修 (10日まで)
08 THU	
09 FRI	
10 SAT	
11 SUN	
12 MON	■就職ガイダンス(芸術学部) ■阿蘇研修 (13日まで)
13 TUE	■就職ガイダンス(工学部)
14 WED	■就職ガイダンス(情報学部・生物生命学部) ■学生定期健康診断(21日まで)
15 THU	
16 FRI	
17 SAT	■新入生サークル勧誘会
18 SUN	
19 MON	■インターンシップ説明会(芸術学部)
20 TUE	■インターンシップ説明会(工学部)
21 WED	■インターンシップ説明会(情報学部・生物生命学部) ■履修登録票提出期限
22 THU	
23 FRI	
24 SAT	
25 SUN	
26 MON	■公務員講座説明会
27 TUE	
28 WED	
29 THU	■昭和の日
30 FRI	

5 MAY

01 SAT	
02 SUN	
03 MON	■憲法記念日
04 TUE	■みどりの日
05 WED	■こどもの日
06 THU	
07 FRI	■学生総会
08 SAT	
09 SUN	
10 MON	■一般常識テスト事前講習会(芸術学部)
11 TUE	■一般常識テスト事前講習会(工学部)
12 WED	■一般常識テスト事前講習会(情報学部・生物生命学部)
13 THU	■適性診断テスト(14日まで)
14 FRI	
15 SAT	■キャンパス相談会
16 SUN	
17 MON	■SPI講習会①(芸術学部)
18 TUE	■SPI講習会①(工学部)
19 WED	■SPI講習会①(情報学部・生物生命学部)
20 THU	
21 FRI	
22 SAT	■遠歩会(23日まで)
23 SUN	
24 MON	■一般常識テスト①(芸術学部)
25 TUE	■一般常識テスト①(工学部)
26 WED	■一般常識テスト①(情報学部・生物生命学部)
27 THU	■SPIテスト①(28日まで)
28 FRI	
29 SAT	
30 SUN	
31 MON	■就職ガイダンス②(芸術学部)

6 JUNE

01 TUE	■就職ガイダンス②(工学部)
02 WED	■就職ガイダンス②(情報学部・生物生命学部)
03 THU	
04 FRI	
05 SAT	■後援会総会
06 SUN	
07 MON	■就職講演会①(芸術学部)
08 TUE	■就職講演会①(工学部)
09 WED	■就職講演会①(情報学部・生物生命学部)
10 THU	
11 FRI	
12 SAT	■美井展(展示部門)(13日まで) ■第11回オープンキャンパス
13 SUN	
14 MON	■SPIテスト②(芸術学部)
15 TUE	■SPIテスト②(工学部)
16 WED	■SPIテスト②(情報学部・生物生命学部)
17 THU	
18 FRI	
19 SAT	
20 SUN	
21 MON	■インターンシップ説明会②(芸術学部)
22 TUE	■インターンシップ説明会②(工学部)
23 WED	■インターンシップ説明会②(情報学部・生物生命学部)
24 THU	■SPIテスト②(25日まで)
25 FRI	
26 SAT	
27 SUN	
28 MON	■一般常識テスト②(芸術学部)
29 TUE	■一般常識テスト②(工学部)
30 WED	■一般常識テスト②(情報学部・生物生命学部)

SOJO

VOL.55
Spring
2010



UNIVERSITY INFORMATION MAGAZINE

巻頭特集 今こそ、就職に強い大学へ。



2010 OPEN CAMPUS

オープンキャンパスに

- 見て
- 聞いて
- 体験する



崇城大学生という自分の未来!!

体験実験や研究室探索、
教員や在学生への質問タイムなど、
崇城がどんな大学なのか、
しっかりわかるイベントがいっぱい。
入試攻略アドバイスもあるオープンキャンパスで、
自分の未来をイメージしよう!!



- <開催日時>
- 第1回 ● 6月12日[土] 第2回 ● 8月7日[土]
 - 第3回 ● 8月22日[日] 第4回 ● 9月25日[土]

★別途キャンパス相談会開催中 ★詳細は本学ホームページへ

お問合せは入試課まで
TEL.096-326-6810(直通) nyushi@ofc.sojo-u.ac.jp

崇城大学 SOJO UNIVERSITY

- 工 学 部 機械工学科/ナノサイエンス学科/エコデザイン学科
建築学科/宇宙航空システム工学科<総合課程>
<専修課程航空整備士養成コース><専修課程パイロット養成コース>
- 芸 術 学 部 美術学科/デザイン学科
- 情 報 学 部 情報学科
- 生物生命学部 応用微生物工学科/応用生命科学科
- 薬 学 部 薬学科
- 大学院工学研究科
<博士後期課程>エネルギーエレクトロニクス専攻/機械システム工学専攻/
応用化学専攻/環境社会工学専攻/応用微生物工学専攻/応用生命科学専攻/
<修士課程>電気・電子工学専攻/機械工学専攻/応用化学専攻/
建設システム開発工学専攻/宇宙航空システム工学専攻/
応用微生物工学専攻/応用生命科学専攻
- 大学院芸術研究科
<博士後期課程>芸術学専攻
<修士課程>美術専攻/デザイン専攻

SOJO 検索 <http://www.sojo-u.ac.jp/>

〒860-0082 熊本市池田4-22-1
TEL.096-326-3111(代表) FAX.096-326-3000
広報誌「がくふう」第55号 発行/2010年3月
崇城大学広報誌編集委員会・広報課 (koho@ofc.sojo-u.ac.jp)

02 SPECIAL ARTICLE

今こそ、就職に強い大学へ。

07 SERIES

九州・沖縄8県人の発見

09 A LABORATORY REVIEW

工学部 エコデザイン学科 天本研究室
生物生命学部 応用微生物工学科 松岡研究室

11 NEWS

第6回「ナノサイエンス研究交流講演会」を開催
廃食油100%で走る循環バスを運行
赤松教授が日本生物工学会技術セミナーで講演
第1回「揺らぎが機能を定める生命分子の科学」合同班会議を開催
工学部の学生がJF九州から「感謝状」を授与

12 TOPICS

NHK大学ロボコン第一次選考合格&第二次選考に向けて
建築学科学生が「DA5展」実行委員長として活躍
大学院生が「アジア太平洋航空宇宙国際会議」で論文発表
崇城大学シンボルロゴマークにデザイン学科3年次生の作品が決定
2009年度薬学共用試験が無事終了
資格取得情報

13 SOJO as it is

第41回「日展」に芸術学部の学生9名が入選

14 THE HISTORY OF A PROFESSOR

工学部 建築学科 岩原昭次 教授

15 ALUMNI

デザイナー集団・プロダクション normal 緒方亮さん
大塚製薬株式会社 梶島由香さん

16 INTERNATIONAL EXCHANGES

国際交流だより

CLUBS' ACTIVITY

軟式野球部

17 THIS IS MY FAVORITE BOOK

心響の一冊

18 LOCAL AREA COOPERATION

地域連携

SOJO COLLEGE INFORMATION

崇城大学専門学校からのお知らせ



■表紙アートは、2009年3月に芸術学部・美術学科（日本画コース）を卒業した岩崎友世（いわさきともよ）さん（熊本県・必由館高校出身）の作品「KIRIN」。キリンは、その美しいフォルムに魅せられ、描き続けてきたモチーフ。卒業制作として取り組んだこの作品は、11頭のキリンを11通りの技法で描いた意欲作。塗り込んだ岩絵具を削って模様を浮かあげさせたり、鉛筆で描いたり、これまで取り組んだことのない技法も駆使している。「先生の作品を参考にしたり、友人の技をまねてみたり（笑）、とにかく試行錯誤の連続でした。でも卒業した途端、大きな作品を描くスペースがないことに気づき……画学生にとって崇城大学がいかに恵まれた環境であったか、あらためて感じています。今後は小さな作品であっても心を込めて、「自分らしい創作」を続けていこうです。

大学へ。就職に強い今こそ、

この春に卒業した全国の大学生の就職率はかなり厳しく、2010年2月時点の調査で「80.0%」とされている。

では、崇城大学の場合はどうなのか。

2010年2月末調査の就職決定率は「82.5%」であり、最終的には今年度も全国平均を上回ることだろう。

また本学は開設以来、就職率が90%を下回ったことがなく、2008年と2009年の3月卒業生も

「98.5%」と「94.3%」の高水準だった。

そのため本学は「就職に強い大学」との評価を得ている。

しかし、特に注目してほしいのは、社会の求めを強く念頭においた、

人材養成のための学部・学科の真摯なスキル教育であり、

学生自身が進路を拓こうとする意識を早期に形成するキャリア教育や、

教職員が一丸となって学生をサポートする全学体制などである。

また同時に、学生たちは「希望する職に就くことを当然視」することができるよう、

これらの教育や支援を真正面から受けとめて懸命な毎日を過ごしており、

昨年3月卒業生の「92%」が就職先に「満足している」と回答*している。

*2009年度3月卒業生の就職に対するアンケート調査

そのような今、私たちが目標にしているのは「就職率100%」だけでなく、

学生たちが卒業時に抱く、進路への「満足度100%」も目標としており、

どちらもが「100%」になってこそ「100点」満点なのだと考える。

そして、その日に向けて私たち崇城大学は、

人材養成のためのスキル教育や早期からのキャリア教育、

全学体制による就職サポートのさらなる強化に取り組んでいるのだが、

それらは現在、どのような結果を示しつつあるのだろうか。

結果を示した3名の2010年3月卒業生へ就職部長が、

これから結果を示そうとする5名の在学学生へ就職課長が、

さまざまな問いを投げかけた。

全国大学生就職率

80.0%

(2010年2月1日現在)

本学の就職率

82.5%

(2010年2月26日現在)

本学過去3年間の就職率

2007年 97.0%

2008年 98.5%

2009年 94.3%

(いずれも3月卒業生)



きみたちはなぜ、 第一志望の企業に 就職できたのか?

就職満足度

92%

※2009年3月卒業生の
「就職に対する
アンケート調査」より



●卒業と入社を控えた2010年2月、今回のインタビューのために集まった3名に就職課スタッフを交えて。後列左から濱口誠就職課長、松尾健輔就職部長(工学部・宇宙航空システム工学科教授)。

2010年3月卒業生の主な就職先

- ※順不同・株式会社等の組織称および敬称略
- 北海道和光純薬 ●北里研究所 ●富士薬品
 - 朝日航洋 ●NHKアイテック ●大盛工業
 - 協和エクシオ ●警視庁
 - KDDIテクニカルエンジニアリングサービス
 - 三徳航空電装 ●ジャステック
 - JAL航空機整備東京
 - 全農サイロ ●大成設備 ●大東建託
 - 太平電業 ●テクノ菱和
 - テックエンジニアリング ●東亜新薬
 - 東京都教員 ●ナカノフード建設 ●日鉄ハード
 - 日本海事検定協会 ●日本建設工業
 - 日本製紙 ●日本設備工業 ●日本ファシリオ
 - 日本メックス ●ハイウェイ・トール・システム
 - 一建設 ●パナダイナムコゲームス
 - 東日本旅客鉄道(JR東日本)
 - 富士通ビー・エス・シー ●自衛隊 ●三菱重工業
 - 三菱電機ビルテクノサービス ●山崎製パン
 - 郵便事業 ●理工協産
 - 菱友システムズ ●和興エンジニアリング
 - サイバーコム ●JFEエンジニアリング
 - 中央エンジニアリング ●石川製作所
 - 協同ゴム工販 ●エアロ
 - MHIエアロエンジンサービス ●竹田設計工業
 - タマディック ●中菱エンジニアリング
 - 三菱自動車エンジニアリング ●めいらくグループ
 - 水谷建設 ●ひまわり薬局 ●太陽精機
 - イカリ消毒 ●エア・ニッポンネットワーク
 - ANAエアポートサービス
 - イーピーアイコーポレーション
 - 大阪特殊鋼管製造所 ●大阪府警察
 - 奥村組土木興業 ●関西メディカルシステムズ
 - きんでん ●サラヤ ●大鉄工業
 - 西日本旅客鉄道(JR西日本) ●西村ケミテック
 - 藤本製薬 ●特殊電極 ●田村薬品工業
 - 朝日工業 ●極東興和 ●JFEスチール
 - 一番食品 ●ANAグランドサービス福岡
 - 九州旅客鉄道(JR九州) ●九電工
 - コスモス薬品 ●翔薬
 - 新生堂薬局 ●正見 ●西部電気工業
 - 太陽建機レンタル ●筑水キャニコム
 - ナチュラル(ドラッグストア モリ)
 - 西日本プラント工業 ●日本乾溜工業
 - リョーユーパングループ ●済生会唐津病院
 - 松尾建設 ●宮島醤油
 - ANA長崎エンジニアリング ●大島造船所
 - 協和機電工業 ●長崎菱電テクニカ
 - 三菱重工業・長崎造船所 ●敷内薬品
 - アイ・ウッドダイワ ●天草信用金庫 ●岩永組
 - えがお ●エヌ・ティ・ティネオメイト
 - 化学及血清療法研究所 ●片岡レディスクリニック
 - 九州ステリ ●九州テクニカルメンテナンス
 - 熊本県警察 ●金剛 ●新産住拓 ●杉養蜂園
 - 同仁堂 ●永井製作所 ●ナカヤマ精密
 - 西日本システム建設 ●肥後銀行
 - 不二ライトメタル ●八代市役所 ●ヤマックス
 - 小代築炉工業 ●富士通エフサス太陽
 - フドーキン醤油 ●九南 ●霧島酒造
 - スカイネットアジア航空 ●イケダパン
 - 鹿児島県警察 ●コアツ工業
 - 日本エアコンピューター ●日本澱粉工業
 - ホシザキ南九



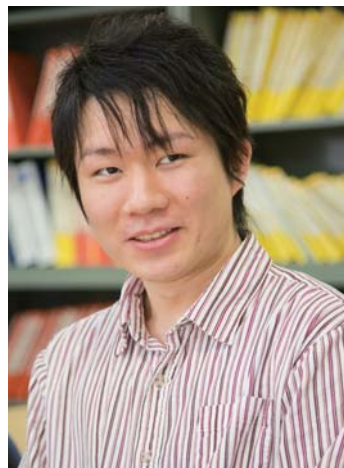
就職部長
工学部 宇宙航空システム工学科 教授
松尾 健輔

宇宙航空システム工学科が示し続けてきた就職実績を誇り、2008年4月より就職部長。専門分野は航空工学の中でも特に次世代型特殊航空機(ACV)の実用化研究。



株式会社 肥後銀行
(2010年4月入社)
速永 祐子さん

生物生命学部・応用生命科学科を2010年3月に卒業(熊本県・第一高校出身)。大学で身につけた勉強する習慣を活かし、経済系の資格取得に意欲を示す。



株式会社 きんでん
(2010年4月入社)
内田 圭亮くん

情報学部を2010年3月に卒業(福岡県・浮羽工業高校出身)。電気・通信系の専門知識や技術に加え、大学4年間でコミュニケーション能力を大いに伸ばした。



三菱重工業 株式会社
(2010年4月入社)
松村 圭一朗くん

工学部・機械工学科を2010年3月に卒業(熊本県・熊本工業高校出身)。勤務地は長崎造船所であり、約1年間におよぶ研修生活の目標は「本気と元気」。

まずは立場をこえて問いかける

「これまで崇城大は“就職に強い大学”との評価を得てきた。そのベースは概ね、高度な技術力と実践力を養う専門教育を信頼する企業から、教授や研究室に寄せられる“優秀な人材を紹介してほしい”との声だった。しかし、この3月の卒業生には、君たち3名のように自主的かつ主体的な活動により内定を得た者も多い。なぜなのだろう」。

松尾健輔就職部長(工学部・宇宙航空システム工学科教授)の立場を越えた問いへ、この4月から大阪に本社をおく電力供給や通信の総合設備工事の大手企業“きんでん”に勤務する内田圭亮くん(情報学部2010年3月卒業生)がまずは答える。

転機は合同企業説明会

「僕たちの年度生は経済状況に関する危機感が強く“自分でなんとかしよう”と考える者が、従来に比べて多かったように思います。また全学体制の就職支援や早期のキャリア教育が強化されたのも僕らの年代からであり、それらが背景にあるとも感じます」。

実際、このように述べた内田くんが“きんでん”に就職を決めたのも全学体制の就職支援がきっかけだったらしく「本学で行われた合同企業説明会に来られた人事担当の方のお話を聞くまで“きんでん”という会社のことは知らず、それまでは九州の電力供給系工事企業を第一志望にしていた」という。ではなぜ、彼は第一志望を“きんでん”にあらためたのか。

「その九州の会社からも実は内定をいただいたのですが、しかし近畿圏というより大きなフィールドで自分を試してみたいと思ったんです。それでゼミの柿木助教に相談したら親身になってアドバイスしてくださり、決心することができました」。

自己分析を重ねたことで

ではバイオ系の研究者から志望を転じ、地元の肥後銀行へ就職した速永祐子さん(生物生命学部・応用生命科学科2010年3月卒業生)はどうなのだろう。

「はじめは研究開発職に就こうと思っていました。それで自分にはどのような企業が適しているのか、考えるきっかけを求めてキャリア教育の授業で教わった自己分析に取り組んでみたくて。でも自己分析を重ねるほどに“研究開発者としての私”がイメージできなくなり、研究室の松本陽子教授に相談したら“研究を通じて培った考察力や分析力はどのような仕事にも役立つから”とアドバイスしてくださった。おかげで志望を転じる勇気が湧いたのです」。

また彼女の同期入行には理工系学部の出身者が約半数を占めているとのこと。それについて松尾就職部長は次のように分析する。

“千本ノック”感覚の面接練習

松村圭一朗くん(工学部・機械工学科2010年3月卒業生)のケースは少々ユニーク。彼は熊本工業高校から「硬式野球を続けるため」に本学へ進学したらしいのだが、その就職先は日本を代表する企業のひとつである三菱重工業・長崎造船所。彼はどのようにして、難関を突破したのか。

「入学当初、将来は高校教員になって野球部の指導をしたいと思っていました。とはいえ“野球しかしていない大学生”では教員になれませんか、機械工学科の勉強も頑張っていたら“エンジニアとしての企業勤務もよいな”と思うようになったんです。それで“どうせチャレンジするならメジャーを”と考え、学科に求人が出ていた三菱重工業を志願することに。それは“採用されるわけない”と思ってのことでした。しかしゼミの河瀬助教から“アスリートならめざす限りはベストを尽くせ”と言われ、始まったのが本気の就職対策。面接時、頭が真っ白になっても言いたいことが述べられるよう、“硬式野球に打ち込みつつ面接技術習得にも懸命でした”という旨の自己アピールの練習は、“千本ノック”感覚で何度も繰り返しました。実際、面接時のことはよく覚えていないのですが、反復練習の成果があったのでしょう。これまでに打ったどのホームランより、内定の知らせがあったときのほうがうれしかったですね」。

3名に共通していることがある

「きみたちはなぜ第一志望の企業に就職できたのか」。これを主題とする問いに答えてくれた3名、それぞれ背景に違いはあっても、松尾就職部長は「共通していることがある」という。それはなにか。

「内田くんは合同企業説明会、速永さんはキャリア教育(自己分析)、松村くんは部活、3名とも“大学をフル活用”していると思いませんか。加えて全員がゼミや研究室の教員に相談し、そのアドバイスを主体的な行動に活かしている。そして、これらから私は、就職課が主幹として提供するサポートとキャリア教育、学科による専門教育と個別の進路指導、それらの融合が学生たちの“就職力”を強くすることにつながると確信した。経済状況がたとえ好転しなくても、この3名をキャリアモデルとする取り組みが、来春には成果となってあらわれていることでしょう」。

きみたちはなにを、 就活サークルから 得ているのか？



就活サークル「P&C」とは

求人や会社説明会などの就職に関する情報提供から、学生個々の適性発見や志望企業の絞り込み、履歴書の添削や面接指導など、学科や研究室と連携した就職活動のトータルサポートを行うようになっていった本学の就職課。その視点は近年、1・2年次生を対象とした早期キャリア教育にも注がれ、具体的な取り組みのひとつとして注目を集めるのが「P&C」という就活サークル。

*Person (Power/Passion/Pioneer) & Company
この「P&C」は2009年11月、国の大学教育学生支援推進事業・学生支援推進プログラムの採択を受けて発足しており、当時のメンバーは1・2年次生による約30名。人材開発の専門家である外部講師によるマンナ指導を受け(週1回)、学生たちが選んだ企業に自ら連絡して訪問。その際に得た“学生目線”の情報を、学内に広く発信していく。

そのような「P&C」を企画した一人であり、今もサークルの補佐を務める濱口誠就職課長は“大学の狙い”を次のように述べる。

「他の学生へ“学生目線”の企業情報を発信することに、メンバー全員が目的意識をもって来ています。また多くのメンバーが人材開発の専門家から指導を受けられること、就活のシミュレーションができること、これらに魅力を感じて来ています。しかし、そういった具体的なメリットの提供はもとより、大学が意図しているのは、全学生への“良質な化学反応”に他なりません。メンバーたちは学生の約0.8%にしか過ぎませんが“1・2年次生なのに就職を考えた行動をしている者がいる”という刺激は、既に予想以上の好影響をもたらしつつあります」。

しかし、だからこそ、濱口就職課長が「P&C」のメンバーに向ける視線は厳しい。「きみたちはなにを就活サークルから得ているのか?」という問いへ、5人のメンバー(全員が工学部)が答えてくれた。

●写真左から(全員が工学部) 井岡拓也くん(宇宙航空システム工学科2年次生/新潟県・新発田南高校出身)、河野しおんさん(建築学科2年次生/熊本県・熊本工業高校出身)、鶴口正行くん(宇宙航空システム工学科3年次生/鹿児島県・開陽高校出身)、宮崎仁美さん(ナノサイエンス学科3年次生/佐賀県・鳥栖高校出身)、前田晃平くん(ナノサイエンス学科3年次生/熊本県・天草高校出身)。※表記の学年はすべて2010年度

企業訪問も既に行って

「研究・診断機器や試薬を扱う企業を訪問しました。同社を訪ねたのは専攻するナノサイエンスとの関連でしたが、お話を通じて、企業は学生の専門力と総合力の双方を見ていると実感。知識の幅を広げるため、エコデザイン学科の授業も受けるようになるなど、このサークルの活動から僕は、今後につながる“気づき”を得ています」。このように答えたのはナノサイエンス学科3年次生の前田晃平くん。

同学科・同年次の宮崎仁美さんも葉面散布剤の研究・開発を行う化学系企業を訪ねており「実際の就活をイメージしつつ企業訪問しました。それで私が感じたのは“企業の方との会話は人間の成長につながる”ということ。おかげで就活そのものについて、不安より期待のほうが大きくなりました」という。

次に発言したのは、共に航空機の開発系エンジニアをめざす2名の宇宙航空システム工学科生。まずは3年次生の鶴口正行くん。

「メンバー募集の内容から、就活の実践的訓練が受けられることを知って応募しました。その訓練は週に1回あり、しかも講師の方はとても熱心。今は“就活のため”というより、エンジニアの職に就いてからのことを意識し、社会人としてのマナーやコミュニケーション能力の向上に取り組んでいます」。

続く2年次生の井岡拓也くんは「学科の先生に勧められてメンバーになった」らしいが、これまでの活動だけでも得たことは多いよう。

「僕は航空機の開発系エンジニアをめざすだけで、企業に関する意識はなかったんです。しかしサークルの先輩たちとのディスカッションから、漠然とした憧れだけで職に就いたら、実



今こそ就職に強い大学へ

「就活サークルP&C」が発足して約5カ月。この5名の声を集約するのは早計かも知れない。しかし他のメンバーもふくめ、多くが“学生目線”による企業情報の収集・発信や就活のシミュレーション等の活動を通じて得た“キャリア形成への意識”を学内へ化学反応させると同時に、自身の学業の充実につなげているように思われる。そして、それこそが、本学がめざす全学体制による就職支援やキャリア教育の根本姿勢なのだ。

「今こそ就職に強い大学へ」とのメッセージを込めて――。

就職課の主なサポート

- 求人票の受付・公開/毎年、全国約7,000社に「求人依頼」を送付。届けられる求人数は概ね「学生1人に対して7件」という好反応。求人される企業のニーズや必要とされるスキルを分析、学科別の分類などを行い、学生と企業のベストマッチも図る。
- 会社説明会の情報提供/案内があった「会社説明会」の情報を素早く公開。各学科のキャリア・アドバイザーと担任教員等にも情報を伝え、必要とされるスキルをもつ学生の参加を促す。
- 学内企業説明会/企業の採用担当者をキャンパスに招く「学内企業説明会」を随時開催。2009年度は約50社の個別説明会の申込があり実施している。また4回にわたり開催した「合同説明会」には全国からのべ約220社が来学した。
- 就職先の紹介/「希望する業種・職種は決まっているが志望する企業・機関が定まっていない」という学生へ、届けられた求人を中心に就職先を紹介(もしくはエントリーを促す)。ネームバリューに頼らない、自身のスキルが発揮できる企業・機関への就職を実現させる。
- 就活相談/自己分析や企業選び、具体的な就職活動の方法から履歴書の書き方・添削まで、学生の不安解消と就職達成につながるよう、就職課員の他にも専任の相談員を配置。あらゆる相談・指導を手厚く提供。
- 就職ガイダンス/「いつ・どのように・就活するのか」。具体的な就職達成方法のレクチャーを主としたガイダンスを開催(2009年度は5回・計16日間実施)。就職活動コンサルタント等の外部講師を招いた講演会も開催。学生のキャリア形成意識を高める。
- 講習会/論作文やSPI、エントリーシートや自己PR書・履歴書の書き方等の講習会を各学部・学科の特性にあわせて実施。就職試験に備えた手厚い指導を提供する。
- 模擬面接/専門の講師による面接対策・グループディスカッション講習を実施するほか、学生の希望に応じた個別の「模擬面接」も随時に行う。
- 公務員試験対策/国家・地方公務員希望者のために、各省庁、県、市、公団、事業団などの資料、公立学校職員(私立含む)の採用に関する資料を整備。公務員講演会や模擬試験なども実施している。また、地元有名塾と連携し学内で「公務員対策講座」を開講、学生からも高い評価を得ている。



工学部 ナノサイエンス学科3年次生
前田 晃平くん
熊本県 天草高校出身



工学部 ナノサイエンス学科3年次生
宮崎 仁美さん
佐賀県 鳥栖高校出身



工学部 宇宙航空システム工学科3年次生
鶴口 正行さん
鹿児島県 開陽高校出身



工学部 宇宙航空システム工学科2年次生
井岡 拓也くん
新潟県 新発田南高校出身



工学部 建築学科2年次生
河野 しおんさん
熊本県 熊本工業高校出身



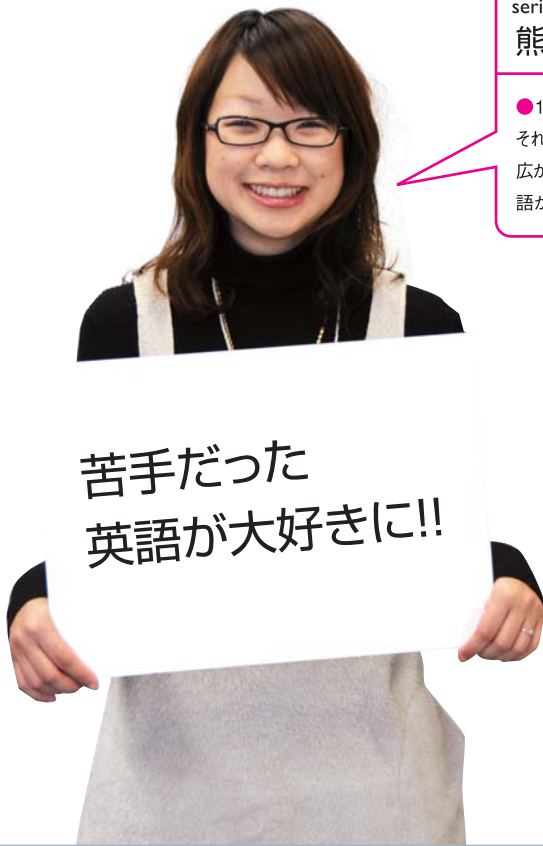
就職課長 濱口 誠

九州・沖縄

県人の発見

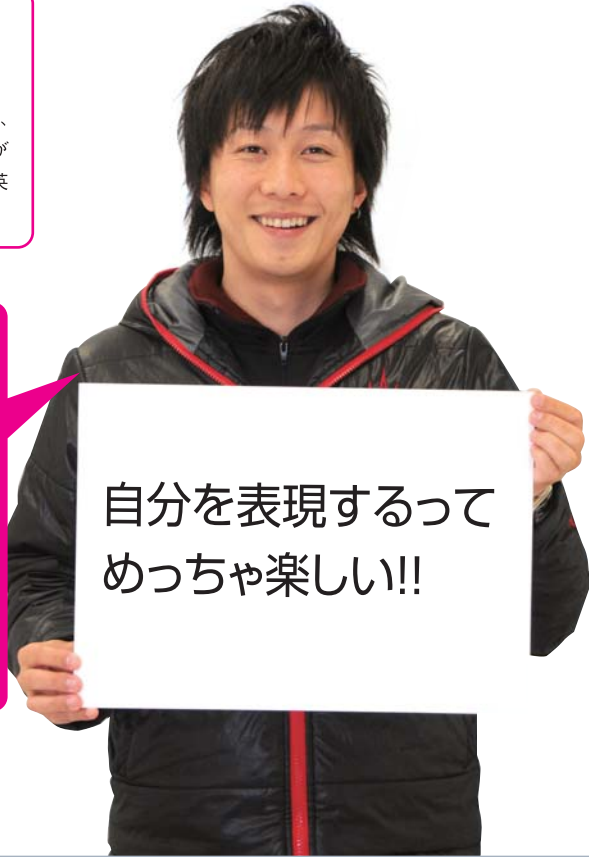
はっけんじんのはっけん

崇城大学生の約90%を占める九州・沖縄8県の出身者。
 そんな彼女ら彼らがこのキャンパスでの出会いや学びから、
 どんな夢や目標、新しい自分や故郷への想いを見つけたのか。
 8県8名の発見を紹介します。



series_04@01
熊本県人
 松崎 香織さん
 薬学部 薬学科2010年度4年次生
 熊本県 真和高校出身

●1年次に大学主催のイギリス短期語学研修に参加、
 それまで英語は苦手でしたが、話せるようになると世界が
 広がることを実感。充実した英語学修環境をフル活用、「英
 語が話せる薬剤師」をめざして頑張ります!!



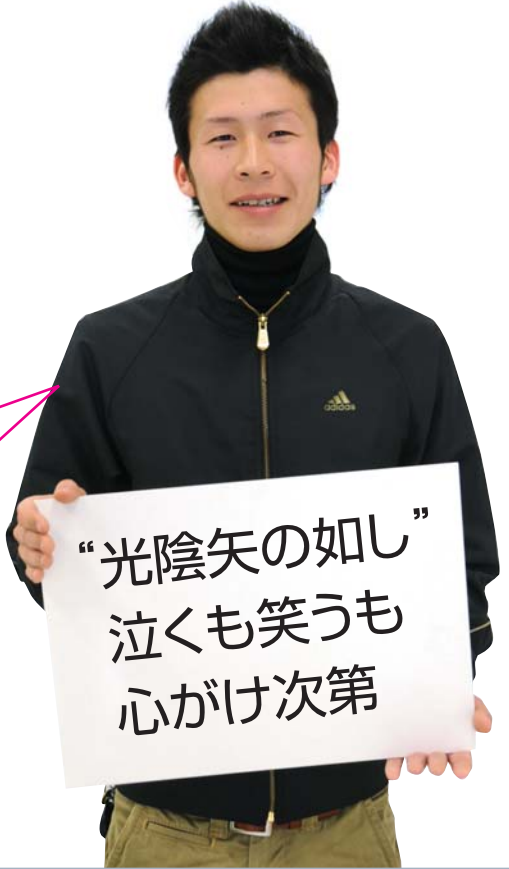
series_04@02
福岡県人
 池田 登くん
 工学部 建築学科2010年3月卒業
 福岡県 久留米高校出身

●建築学科では自分の好きな建築物をデザ
 インすることができるので、僕は曲線美を意識
 した美術館を設計しました。またサークルの
 軽音楽部では、他大学と合同でライブをし
 ました。大学には自分を表現する機会がたく
 さんあり、その楽しさを知りました。



series_04@05
長崎県人
 三角 真一くん
 情報学部 情報学科2010年度2年次生
 長崎県 佐世保南高校出身

●ひとり暮らしを始めた当初はホームシックになり先が思
 いやられました。でも今は大丈夫。それは困った時に助け
 あえ、悩みも打ち明けられる友だちと出会えたから。今後
 も友だちを大切に、大学生活をさらにエンジョイしたいです。



series_04@06
鹿児島県人
 藤田 真一くん
 工学部 エコデザイン学科2010年度4年次生
 鹿児島県 福山高校出身

●あつという間に時は過ぎ、迎えてしまった
 就活本番。今あらためて思うのは、遊んで、
 学んで、恋もして(笑)、しかも仕事を選べ
 て夢が抱ける。そんな“贅沢”な学生生
 活をもたらしてくれた大学に感謝し、今を懸
 念に頑張ります。



series_04@03
大分県人
 岐部 慎太郎くん
 工学部 宇宙航空システム工学科2010年度2年次生
 大分県 森高校出身

●中学生の時に興味をもって以来、飛行機のことを考えなかった日は
 1日ありません!! もちろん将来の目標は航空業界への就職。目標を
 達成するには、クリアすべき課題も多々ですが、好きなことを学べる幸
 せをかみしめ、日々勉学に励みます!!



series_04@04
宮崎県人
 黒木 真由美さん
 芸術学部 デザイン学科2010年3月卒業
 宮崎県 皇雲高校(旧 延岡西高校)出身

●大学生生活は、新しい出会いの連続でした。
 気づけば周囲には、私を支えてくれる大切
 な友人・先生がいました。そんな4年間の
 集大成となる卒業制作展の広報活動にも
 奮闘、「有終の美」が飾られていれば幸い。
 すべての出会いに感謝しています。

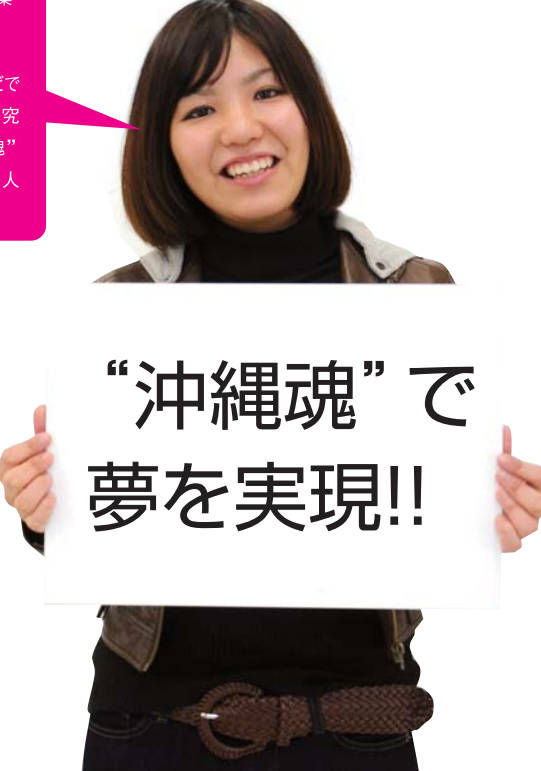


series_04@08
沖縄県人
 松田 沙耶香さん
 工学部 ナノサイエンス学科2010年3月卒業
 沖縄県 具志川高校出身

●3年次生の時に沖縄県人会に入り、各地域のイベントなどで
 エイサーを踊り、沖縄の伝統文化を広めてきました。卒業研究
 が忙しくなってからは参加できなくなりましたが、常に“沖縄魂”
 をもって頑張っています。進学した大学院では研究を通じて、人
 間的にも成長していきたいです。

series_04@07
佐賀県人
 千住 修一朗くん
 生物生命学部 応用生命科学科2010年度3年次生
 佐賀県 致遠館高校出身

●入学当初の1年間、何もせずに過ごしてしま
 いました。でも、それじゃダメだと思って友人のいる写
 真部に入部。それが意外と楽しくて、気づけば写
 真に夢中な毎日に。今は部活の仲間と楽しく、充
 実した学生生活を過ごしています。



交通・都市システムの改革による 持続可能な省エネルギーまちづくりを提案



AMAMOTO Laboratory

- 専門は都市計画や交通計画。施設配置の最適化問題の解決について、オペレーションズリサーチ的観点(問題解決のための合理的・科学的アプローチ)から問題を解決するための手法を確立する研究を進めています。
- これからの社会づくりは、あるべき姿を想定して、そこへ向かうにはどのような政策をとればよいかを考えるスタイルに変化しています。こうした手法をバックキャストといい、都市計画や交通計画もそのようにあるべきです。
- 私たちの研究室では土地利用の見直しにより、自動車になるべく頼らない生活を可能にする環境の創出をめざしたコンパクトシティのまちづくり、および公共交通(バス・電車)の再生により交通からの二酸化炭素排出を削減する省エネルギーのまちづくりを提案、そのシミュレーションを行うことにより、効果を定量的に評価しています。

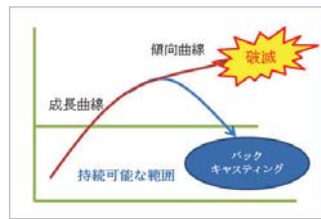


図1:バックキャストの説明図
地球上の二酸化炭素排出量・人口・資源消費・食糧消費などさまざまな成長速度が地球の能力を超えていきます。これを地球の能力以内に抑える必要があります。

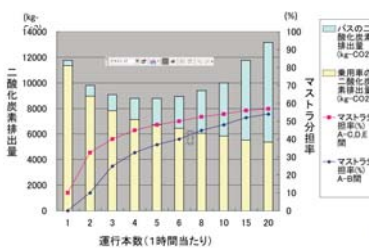


図2:バス運行本数による二酸化炭素排出量の変化(注:マストラ=バスや鉄道などの公共交通機関)

持続可能な社会の将来像2つのパターン

<ドラえもん型>

- Key word / 都市集中型 / 移動はエレベータや動く歩道 / より便利で快適な社会をめざす / 高度なリサイクル技術の革新が必要



<さつきとメイ型>

- Key word / 分散型コミュニティ / 移動はバイオエネルギーによる交通手段 / ゆとりある生活・伝統と文化を大切にす / 医療や教育の高度情報化技術が必要



工学部
エコデザイン学科
天本研究室
● 指導教員 / 天本徳浩 准教授 博士(工学)
● 専門分野 / 都市計画・交通計画



学生にきく

工学部 エコデザイン学科2010年3月卒業
石橋 諒平 くん
福岡県 大牟田高校出身

自身の研究テーマは?

- 「都市公園における、開設年度別のユニバーサルデザインへの取り組みについて」です。人々がふれあう場所であり、同じ作りが2つとない「公園」に魅力を感じ、誰もが利用しやすい公園とはどのようなかを求め、熊本市の公園調査を行いました。

研究室の雰囲気は?

- 少数精鋭です。普段はおちゃらけていて、先生から怒られることもしばしばあります(笑)。しかし卒研での調査や就職活動など、大切な場面では本領発揮できる力を持っているメンバーだと思います。

天本准教授はどんな先生?

- とても真面目で、卒研に関しては厳しい先生です。数多くのアドバイスをいただき、厳しく指導される時もありますが、すべては私たちを思ってくれている。今は自分たちの成長を実感しています。

この1年の主な活動

- ITS情報を活用したバス利便性向上策と二酸化炭素排出量削減について / バスの位置情報ははじめとするITS技術を活用して、バス利用者の待ち時間短縮、運行の効率化、乗用車からバスへの交通手段の転換などにより、交通分野からの二酸化炭素排出量削減するための政策を提案し、その削減量を推定しています。図2は公共交通機関の改善によって、どのように二酸化炭素の排出量が少なくなるかをシミュレーションしたものです。
- そのほか、竹の生態と竹林周辺の自然環境および竹の生物資源エネルギーとしての可能性について、GISを用いた熊本市圏主要交差点の交通量データによる空間的交通分布について、地球温暖化防止のため省資源社会システム構築のための都市利用・交通計画に関する研究などに取り組んでいます。

微生物の代謝を人為的に調節することにより 環境問題の改善やエネルギー資源の有効利用に役立てる



MATSUOKA Laboratory

- 当研究室では主に光合成微生物にターゲットを絞り、太陽光を利用して光合成をおこなう微生物(シアノバクテリアや光合成細菌)を扱っています。これらの微生物は植物と似た、といってもむしろ植物の葉緑体のもとになったもので、簡単な無機物から有機物を合成する能力を備えています。そのため光合成の最も基本となるエネルギー獲得系は光化学系と呼ばれていますが、私たちはそれを使って水素やエチレンなどのガス代謝物質を生産するように微生物に遺伝子操作を施しています。
- 例えば二酸化炭素と水からエチレンを生産できる系は既に構築されていますが、これに用いられているのがシアノバクテリアです。
- 光合成の研究でまだ解明されていない部分として、水分子の分解反応があります。この反応は「膜タンパク質の光化学系II」という20種類以上のタンパク質複合体が光を受容して、そのエネルギーをクロロフィルの酸化還元力として利用することによって達成されています。
- この反応系はすべての地球上の生命の源となっているので、50年以上前から集中的に研究されてきました。当研究室ではシアノバクテリアの遺伝子工学を使って、別の切り口から「光化学系II」の最小化というテーマに取り組んでいます。
- 図に示すようなD1/D2ヘテロダイマーという膜タンパク質を熱に安定なものに取り換えたシアノバクテリア変異株を作成し、これからD1/D2ヘテロダイマーだけを取り出していくというきわめて息の長い研究です。それでも、当大学の卒業研究の4年生と大学院生の努力の積み重ねによって、このテーマが実際に動き出しています。

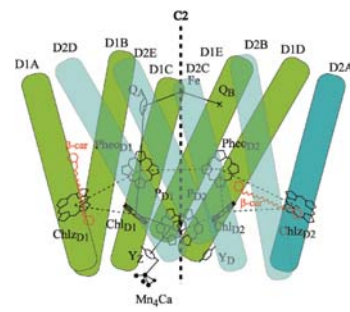


図:D1/D2ヘテロダイマーの構造

この1年の主な活動

- シアノバクテリアのプロモーター強度の定量解析(平成21年度日本生物工学会大会要旨集p.9参照)



生物生命学部
応用微生物工学科
松岡研究室
● 指導教員 / 松岡正佳 教授 工学博士
● 専門分野 / 生物工学

- 当研究室ではさまざまな研究テーマを扱っていますが、すべてに共通するのは「微生物の代謝を人為的に調節することにより環境問題の改善やエネルギー資源の有効利用に役立てる」ことです。
- 例えば、微生物は私たちの環境に生息していますが、ただ生きているだけではなく、代謝を通じて生態系の一員として立派な役割を演じています。もしも微生物が地球上になかったら、人類はおろか動植物も生きてはいけません。
- 但し微生物は目に見えず、種類も多いため、どの特定の微生物を研究するかは、その研究者の目的または好みによります。



学生にきく

生物生命学部
応用微生物工学科2010年3月卒業
川口 翔吾 くん
山口県 鴻城高校出身

自身の研究テーマは?

- 「Yarrowia酵母のセントロメア結合タンパク質の同定」です。染色体上に存在するARS1という塩基配列にどんなタンパク質が結合するのかを解明することで、この菌の性質を知ることができます。また遺伝とタンパク質の両方を用いて研究を行うことができることに魅力とやりがいを感じてこのテーマを選びました。

研究室の雰囲気は?

- とてもアットホームです。研究のことからプライベートなことまで、皆よく話す賑やかな研究室です。研究に対するモチベーションは高く、活気があります。

松岡教授はどんな先生?

- まじめで面倒見のよい先生です。また理論的に物事を観察している先生は研究者として素晴らしい人です。私はもちろん、全員が先生を尊敬しています。

第6回「ナノサイエンス研究交流講演会」を開催

ナノ材料の創製とその実用化とともに、未来のナノテクノロジー分野に貢献する人材の育成は、日本のみならず世界の重点課題のひとつである。それらをふまえ、本学にナノサイエンスの教育・研究拠点を構築するために2007年度からナノサイエンス学科が、さらに2008年度から私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（文部科学省）がスタートし、その事業のひとつとして行われているのが「ナノサイエンス研究交流講演会」である。



その第6回が2009年12月3日、琉球大学・産学連携推進機構、(有)機能材料研究所の喜納兼勇代表取締役を招き行われた（講演題目／金属イオン検出プローブの分子設計について）。毎回、講演者との最新の情報交換、本学教員とともに学生との交流を活発に行っており、今後ますます発展していくことが期待される。

赤松教授が日本生物工学会技術セミナーで講演

2009年12月12日、日本生物工学会技術セミナーが開催され、生物生命学部・応用微生物工学科の赤松隆教授が「竹からのバイオエタノール変換に向けた実用酵母の育種」という演題で講演した。近年、竹は里山や森を浸食するままに放置され、各地で深刻な問題となっている。一方、竹は極めて生育が速く、再生可能な潜在的バイオマス資源と位置づけられ、バイオ関連分野からの有効利用が期待されている。これまで赤松教授らの研究グループは竹を使用した発酵法によって得られるキシロースの取り込みに関する問題を解決するため遺伝子操作によって実用酵母を改変、新規なグルコース・キシロースの取込みに優れた酵母を造成している。講演で赤松教授は、竹からバイオエタノールを生産するため意欲的に取り組んできた一連の研究を平易な言葉で紹介した。

工学部の学生がJR九州から「感謝状」を授与



左から中山学長、坂本くん、古岡くん

2009年12月1日、工学部・エコデザイン学科2009年度2年次生の坂本佳太くん（熊本県・玉名高校出身）と同・古岡直弥くん（熊本県・文徳高校出身）にJR九州より感謝状の授与が行われた。これは10月7日に「JR崇城大学前駅」のホームで線路に倒れた照明用ポールを取り除き駅員に連絡するなど、その迅速な対応により、惨事を回避したことに対して授与されたものである。感謝状授与のあとには両学生が中山学長へ報告、熊本日日新聞社からも取材を受けた。

廃食油100%で走る循環バスを運行

この循環バスは学生食堂から出る廃食油100%で運行する画期的な乗り物である。地球温暖化や地球資源の枯渇が問題となっている今、再生可能エネルギーであると同時にカーボンニュートラルの植物油で走行する車は未来に希望を与えるものである。なお廃食用油をディーゼル燃料の燃料とする方法としてバイオディーゼル燃料（BDF）があるが、いくつかの問題があり普及は進んでおらず、本学が採用したストレート・ベジタブル・オイル（SVO）という新しい方法はこの問題点をすべて克服した画期的なシステムである。日本の大学界では、本学が初めて試みるものであり、エコキャンパス構想の柱のひとつになるだろう。



第1回「揺らぎが機能を定める生命分子の科学」合同班会議を開催



文部科学省が世界的に新しい学問領域を形成し得る研究に予算配分を行う、新学術領域研究の「揺らぎが機能を定める生命分子の科学」の第1回合同班会議が2009年9月11日から13日の間、南阿蘇で開催された。「揺らぎと機能」班長である生物生命学部・応用生命科学科の上岡龍一教授が世話人となり、全国からこの分野の最先端研究者が集まり、生体分子の揺らぎに関する最先端の研究が紹介された。参加者からは「サイエンスの面からも生活の面からも、最高級の会議であった」と感謝の言葉が寄せられた。また、その質の高い研究討議の様子は、熊本日日新聞の9月12日朝刊でも紹介された。

NHK大学ロボコン 第一次選考合格&第二次選考に向けて

太平洋・アジア地域の国と地域を代表する大学チームで競技する「ABUアジア・太平洋ロボコン」。その日本代表を選考する「NHK大学ロボコン」の第一次選考（書類審査）に崇城大学ロボット研究会が合格した。今回は応募59チームのうち20チームが合格という、競争率3倍の厳しい関門だったが、主体となって提案書を作成した2009年度1年次生の独創的なアイデアが評価され、突破できたと考えている。第二次選考（ビデオ審査）は4月上旬の予定。現在、研究会部員が丸となってロボット製作を休日返上でやっている。



大学院生が「アジア太平洋航空宇宙国際会議」で論文発表



大学院修士課程・宇宙航空システム工学専攻2009年度2年次生の中嶋宏一さん（福岡県・八幡中央高校出身）が2009年11月15日から19日、中国・黄山市で開催された第6回「アジア太平洋航空宇宙国際会議」に、指導教授の西田迪雄教授とともに参加。「Numerical and Experimental Investigations of an Annular Supersonic Jet」と題する論文を発表した。出席者の関心を集め、多くの質問が寄せられた。このような国際会議に参加したことは、本人にとって良い経験になったと思われる。

2009年度薬学共用試験が無事終了

6年制薬学教育においては、5年次に実施される長期実務実習に必要な基本的な能力（知識・技能・態度）を評価するための共用試験（基礎知識を問うコンピューター支援基礎学力試験／CBT、および技能や態度を問う客観的臨床能力試験／OSCE）が導入されている。当薬学部でも2009年12月3日と4日にCBTを、12月20日にOSCEを実施した。インフルエンザによる欠席者もなく、2009年度4年次生の全員が無事に受験した。合格者は、いよいよ今年5月からの病院薬局・保険薬局にて、それぞれ2.5カ月間の実習に赴く。



建築学科学生が「DA5展」実行委員長として活躍

工学部・建築学科2009年度3年次生の岩本圭史くん（熊本県・文徳高校出身）が「DA5展」の実行委員長を務めた。「DA5(ダゴ)展」とは県内の建築系学生が取り組む共同の卒業設計展。4大学+1高専の「5」と熊本弁の「だご」(veryの意)をかけたネーミングである。今回で第4回を迎え、2010年3月1日から3日間開催された。この展示会の特徴は、4年次生のために後輩たちが企画・運営を行っている点にある。「皆から意見をだしてもらったことが難しかった」と約30名の学生組織を1年間にわたり引っ張った岩本君。養ったプロデュース力を、次回は出品者として活かしてくれることだろう。



熊本県立大での会議風景（中央奥のブルーのウエアが岩本くん）

崇城大学シンボルロゴマークにデザイン学科3年次生の作品が決定

君が淵学園創立60周年記念事業のひとつとして大学シンボルロゴマークの公募が行われ、応募総数150点の中から、中山学長を審査委員長とする審査の結果、芸術学部・デザイン学科2009年度3年次生の小田起世和くん（長崎県・長崎工業高校出身）の作品が選ばれた。デザインコンセプトは「脈動するエネルギーをもち未来に向かう大学」であり、崇城の「そ」がモチーフとなっている。現在、デザイン学科を中心に、大学のアイデンティティ確立とブランドイメージ統一のためのデザイン策定を進めている。



2009年11月26日の創立60周年記念式典でのデザインの披露と表彰式

資格取得情報

平成21年度 機械設計技術者3級試験の合格結果	甲種危険物取得者
工学部 機械工学科 <2009年度4年次生>	工学部 ナノサイエンス学科 <2009年度4年次生>
● 上村 尚也くん(熊本県・八代高校出身)	● 前原 浩平くん(鹿児島県・錦江湾高校出身)
<2009年度3年次生>	● 森 隆雄くん(大分県・竹田高校出身)
● 衛藤 弘典くん(熊本県・熊本西高校出身)	
● 加藤 崇之くん(宮崎県・都城工業高校出身)	
● 川口 智哉くん(熊本県・八代南高校出身)	
● 澤田 昭仁くん(熊本県・熊本西高校出身)	
● 田中 祐伸くん(熊本県・熊本西高校出身)	
● 福島 歩くん(熊本県・天草高校出身)	
● 前田 隆志くん(熊本県・東稜高校出身)	
● 本山 幸照くん(熊本県・八代高校出身)	
	乙種4種危険物取得者
	生物生命学部 応用生命科学科 <2009年度1年次生>
	● 安徳 有紀さん(福岡県・久留米高校出身)
	● 江口 舞奈さん(鹿児島県・大川高校出身)

Photo Scrap*



1.18~22
寒稽古



2.5~27
(金曜・土曜)
山鹿灯籠浪漫・豪華百彩



2.10
教養講座修了式



2.2~22
卒業研究発表会



2.17・18
合同企業説明会



芸術学部 卒業制作展
2.23~28
(熊本県立美術館分館)
3.2~7
(福岡県立美術館)



3.10
大学院修了式



3.15
卒業式

日展(日本美術展覧会)は日本を代表する公募美術展のひとつにあげられています。

この日展に、本学芸術学部から毎年多く入賞者を輩出しています。

第41回日展では、日本画部門で1名(応募総数631点)、洋画部門で4名(応募総数2101点)、彫刻部門で4名(応募総数197点)、計9名が入選しました。

今回はその作品と学科の実習風景を紹介します。

気軽に撮影に応じてくれる美術学科・洋画コース
熊谷有展教授と学生たち



● 今回4名の入選を果たした洋画コース生の作品



刻まれた時の記憶 原 愛香



月曜日の雨 武田 理香



船揚場 佐藤 博美



銅版画のある静物 小野 大輔



毎日こうやって描いています



モデルを描く実習風景



みんなでフィールドワークも行います



井芹祭でのライブペインティング

国指定重要文化財史跡・荒尾市の万田坑見学

● 美術学科・日本画コース
中村賢次教授が日展会員賞を受賞

各部門1名のみ
栄誉ある賞



「夏の夜に舞う」 中村 賢次

● 日本画コース生の作品



「木漏れ日」 緒方 裕和

第41回日展入選者一覧

大学院博士後期課程・芸術学専攻3年次生

● 田原迫華(鹿児島県・鹿児島大学出身)

大学院博士後期課程・芸術学専攻2年次生

● 東耕平(熊本県・熊本工業高校出身)

大学院修士課程・美術専攻2年次生

● 緒方裕和(熊本県・文徳高校出身)

● 小野大輔(長崎県・諫早東高校出身)

大学院修士課程・美術専攻1年次生

● 西村佳菜子(佐賀県・佐賀大学出身)

美術学科・彫刻コース4年次生

● 有賀祥(北海道・札幌北高校出身)

美術学科・洋画コース4年次生

● 武田理香(熊本・熊本農業高校出身)

美術学科・洋画コース3年次生

● 佐藤博美(熊本・第二高校出身)

美術学科・洋画コース2年次生

● 原愛香(熊本・第二高校出身)

※学年はすべて2009年度 ※敬称略

毎年多くの入選者が出ている 彫刻コース生の作品



「between the blanket」
西村 佳菜子

「葛」 有賀 祥



「第二月曜日」 東 耕平

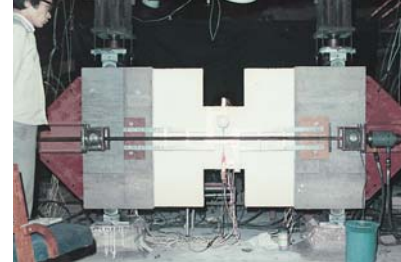


「静謐への憧れと煌めく衝動が交差する」
田原迫 華

いつの間にか、構造から素材へ 今あらためて“研究を楽しむ”という

大学時代 実験と計算の結果があわず 四苦八苦の連続

● 大学では力学関係の科目が好きでした。特に、実験結果がある法則に基づいた計算で確かめられることに驚き、感動的だったことを覚えています。学部の卒業研究は水平荷重を受ける耐震壁の挙動を計算(今から眺めると……とても解析的研究とはいえません)で確認するテーマを選びました。この時は実験結果と計算結果がうまく合わず、四苦八苦の連続でした。



● 大学での初実験(1973年)

● 大学院では床スラブの大家といわれる東洋一先生の何とも形容しがたい微笑みと厳しい指導の下で、複素関数(虚数 $i = \sqrt{-1}$)で構成される関数論)と写像関数を用いた有孔弾性平板の研究を修士で2年、博士課程で4年、合計6年間3人の助手の先生方の後姿と横姿に囲まれて勉強していました。



● 工学博士學位授与
(中央が東先生・工学部長室にて1980年)

熊本に来て テント小屋(?)で 研究と実験を

● 1981年4月に熊本工業大学(現・崇城大学)に来ました。そして、鉄筋コンクリート床スラブの長期たわみに関する研究に着手しました。当時は実験設備がまったくなく、体育館の裏に柱・梁が鋼管パイプ、屋根がビニール波板、壁がブルーシートという小屋をつくり、実験を始めました。
● いつ倒れてもおかしくない建物(学生たちはテント小屋といっていました)でしたから、大風や台風襲来の際は昼夜の別なく、その時々状況に応じて補強ばかりしていました。
● 1999年から、私の提案する合成スラブやフルプレキャストスラブの実用化を某企業の援助を受けて開発しはじめました。この頃から、研究がとても楽しくなったことを覚えています。



● 熊本工業大学(現・崇城大学)岩原研究室の第1回卒研生(1981年)

現在 PS灰の物理的特性の 研究を進行中

● 人間の感性・知覚と床スラブの関係や建物の安全性を研究していくうちに、既存の材料を使用しないで、資源の有効活用(リサイクル)、超軽量および安全という3つの視点から、建築構造のあるべき姿を模索するようになりました。さまざまな調査をしていくうち、ペーパースラッジ灰(以後PS灰)に行当たりました。PS灰は、セメントなどの製造に少量添加される産業廃棄物ですが、2006年度より製紙工場から試料の提供を受け、また熊本県からリサイクル補助金もいただき、化学的・物理的特性の研究を始めました。この研究は、無害な素材にするために塩化物イオンとフッ素を低減する方法を確立しなければなりません。建築学と化学との境界を往復しています。



工学部 建築学科
岩原 昭次 教授

プロフィール ● 1949年12月、東京都生まれ。1980年3月、東京都立大学大学院工学研究科建築学専攻博士課程を修了。翌年4月に熊本工業大学(現・崇城大学)建築学科に講師として赴任。2008年から教授。著書に性能形構造設計入門(共著・倍風館2003年)、建築紛争ハンドブック(日本建築学会編、執筆分担・丸善2003年)など。日本建築学会学術委員会委員。

未来 産業廃棄物であるPS灰を リサイクルマテリアルへ

● 2009年から、熊本の地場企業との共同研究で、電磁波を用いてPS灰から塩化物イオンとフッ素を低減する方法の実用化に関する研究を行っています。これがうまくいくと、PS灰はリサイクルマテリアルに生まれ変わります。そして、いよいよ、建築分野などでの構造部材への適用に関する研究を開始する予定です。何年かかるかは分かりませんが、5年は研究で楽しむことができそうです。

学生諸君へ 創造の時代に 必要な行動力を

● これからは、創造の時代だと思います。創造するためには「とことん問いかける」あるいは「とことん実行してみる」ということが大切です。はじめに言えば“行動力”です。これが生きていく証(あかし)だと私は感じています。

卒業生直撃 interview

大手企業の広告からwebやパッケージまで 様々なデザインを手懸ける

デザインプロダクション normal

●緒方 亮さん

2004年3月 芸術学部 デザイン学科卒業 / 2006年3月 大学院修士課程 デザイン専攻修了 / 熊本県 鹿本高校出身



現在の勤務先と主な仕事の内容を教えてください

- 株式会社トーキョー・グレート・ヴィジュアルを経て4人のデザイナー集団・プロダクション normal で活動。広告・グラフィックを中心にデザイン全般を手懸けています。
- 最近の主な仕事はネスレブランド、ネスカフェレジデント、adidas (2010 プレーン3月号掲載)、映画「サイドウェイ」、Laforet原宿キャンペーン広告、等々です。

学生時代の思い出を教えてください

- 熊本やその他の県外、海外で様々なアートイベントや展覧会に参加し、多くの人に作品を観てもらい、多くの人と出会えたことです。それに「モダンアート展」優秀賞、「熊日デザイン賞」2席などの受賞は本当にうれしい思い出であり、自信にも繋がりました。
- 様々な人と出会えたことで熊本現代美術館の展示会のフライヤーや情報誌「タンクマ」の表紙デザインなど、在学中から仕事をさせてもらったことも良い経験として思い出に残っています。

大学時代に学んだことが今どのように活かされていますか

- 専攻はグラフィックだったのですが、様々なことに興味があり、立体作品や写真、映像、パフォーマンス、バンド等々やりたいと思ったことはチャレンジしてきました。それらが仕事のスキルとしてはもちろん、コミュニケーション能力を養うことにつながり、大いに役立っていると感じています。

崇城大に学ぶ後輩たちへ

アドバイスやメッセージをお願いします

- 大学生の強みは失敗とやり直しが何度でもできることだと思います。失敗を恐れず、何にでも挑戦し経験してください。また先生方をはじめ、大との出会いにより、不可能なことも可能になり得ます。老若男女問わず多くの人と出会い、その出会いを大切に頑張ってください。

将来の夢を教えてください

- これからも様々なことに挑戦し、20年後も、30年後も、デザインやアートに携わっていること。そして「Happy!!」に生きていくことです。

卒業生直撃 interview

学術担当(兼)管理薬剤師・PMS担当として 医療機関やMRからの問い合わせ等に対応

大塚製薬株式会社 熊本支店

●梶島由香さん

2009年3月 薬学部 薬学科卒業 / 熊本県 真和高校出身



現在の勤務先と主な仕事の内容を教えてください

- 勤務先は大塚製薬株式会社の熊本支店です。仕事は「学術担当(兼)管理薬剤師・PMS担当」という専門的な職種であり、当社では全国の各支店・出張所に約1名ずつ配属されています。
- 具体的な仕事内容は、医療機関やMRの方からの質問についての回答や、MRの方々のサイエンススペースの教育、講演会前の製品の情報提供、医療機関に提供するための医薬品のサンプル管理などです。

●また大学の先生

方には勉学だけでなく、挨拶や礼儀も教えていただいております。事務所にいらした方や医療機関からの電話にも対応できました。学生時代、実習させていただいた病院・薬局の先生に講演会などでお会いする機会もあり、スムーズな情報交換ができています。

学生時代の思い出を教えてください

- 4年次に友人たちと私が運転するワゴン車で大分まで旅行したことが、最も楽しかった思い出です。その友人たちと一緒に勉強し、研究し、様々な苦難、特に卒業試験や国家試験に取り組めたことが心に残っています。勉強の合間にキャッチボールなどをして、リフレッシュしながら、同じ目標に向かってがんばってきたことが、みんなの合格につながったと思います。

崇城大に学ぶ後輩たちへ

アドバイスやメッセージをお願いします

- 実は2年次生くらいまで大学が面白くなく、1日が長くて、つまらなく感じていました。しかし友人たちのおかげで1日を楽しく過ごすことができるようになったのです。変わるタイミングは人それぞれだと思います。みなさんには大学でたくさんよい出会いをし、様々な経験をし、楽しさ、喜びを自分自身で感じてもらいたいと思います。

大学時代に学んだことが今どのように活かされていますか

- 私は学術担当(兼)管理薬剤師・PMS担当ですので、薬理学や動態学などを学んだことが、他の学部の方よりも臨床現場の要望を理解できる土台になっているように感じます。

将来の夢を教えてください

- 10年、20年先のことはわかりませんが、2年後や3年後の姿を思い描きながら日々邁進しています。1日でも早く、困っている患者さんのために貢献できるようになりたいと思っています。

INTERNATIONAL EXCHANGES

国際交流だより

学生4名が交流〜ルブリン工科大学訪問記

- 本学と交流協定を結んでいるルブリン工科大学との交流をさらに深めるため、情報学部2009年度3年次生の村上詩織さん(熊本県・宇土高校出身)、吉川理沙さん(高等学校卒業程度認定試験合格者)、2年次生の内村陽介くん(熊本県・宇土高校出身)、井本宏規くん(茨城県・ウィザース高校出身)とポーランドのルブリンに向った。
- ワルシャワ本駅からルブリンに向けては鉄道の旅となり、外観、雰囲気は1940年代を彷彿とさせた。ルブリン工大に到着後、打合せを行い各種行事の詳細が決まった。



- 情報関係の授業では、担当教員が「特別講義」を用意してくれたため、その際に日本文化の紹介を行った。本学の学生4名は英語とポーランド語を混ぜ、集まったルブリン工大の学生約60名を魅了した。
- また「特別講義」には現地の新聞記者も取材にきており、翌日の新聞に写真付きで掲載された。日本の漢字検定をめざす学生や、ぜひとも本学を訪問したいという学生からの申し出もあり、今後の交流が楽しみである(情報学部 教授 青木振一)。

CLUBS' ACTIVITY

軟式野球部の清家愉智くんが “ALL JAPAN” のメンバーとして 台湾遠征で活躍

- 軟式野球部に所属する工学部・宇宙航空システム工学科2009年度4年次生の清家愉智くん(福岡県・九州産業大学付属九州高校出身)が23名の全日本大学選手団メンバーに選出され、2009年12月9日から15日の間、台湾の台北市で行われた第5回「日台大学軟式野球親善国際大会(主催・全日本大学軟式野球連盟)」に出場した。
- 国際交流試合では中国文化大学、東呉大学、台湾大学、中華民国社会人選抜、計4チームと対戦。全日本チームは全勝した。
- 清家選手は、九州地区から唯一の全日本メンバーであり全試合に出場。10打数5安打、打率5割という大活躍だった。

interview

全日本に選ばれた決め手は何だと思いますか?

- 選手兼監督として、チームをまとめるとともに、全国大会で結果を残したことが評価されたように思います。

メンバーに選出されてから何か準備をしましたか?

- 部活としては「引退後」でしたから、素振りや走り込みを主に準備しました。後輩にノックしてもらったりもしました。



工学部 宇宙航空システム工学科
2010年3月卒業
清家 愉智くん
福岡県 九州産業大学付属九州高校出身
4月から「JR西日本」に勤務。
野球を始めたのは小学校3年生の頃。

今回の感想は?

- とにかく、日本代表チームのメンバーのレベルの高さに驚きました。

今後も野球は続けますか?

- 草野球レベルになると思いますが、生涯ずっと続けたいですね。



軟式野球部



第17代目 主将 / 工学部 ナノサイエンス学科2010年度4年次生
田平 英人くん
宮崎県 都城西高校出身

強豪だけどモットーは「Enjoy Baseball」です!!

- 軟式野球部は鹿児島・宮崎・熊本の計8大学で活動する九州地区大学軟式野球連盟に加盟しています。年に2回、春と秋にはリーグ戦とトーナメントを行い、全国大会と西日本大会を目標に日々練習をしています。
- 2008年には全国大会と西日本大会の両大会に出場、それぞれ強豪校に勝ち、ベスト8進出という結果を残すことができました。
- 昨年は本学から4年次生(上記記載)が日本代表に選ばれ、台湾遠征に参加した実績もあり、自分のがんばり次第で代表に選ばれる可能性は充分あります。
- 毎年5月にはOB・OG会があり、歴代の先輩方との交流もでき、社会人のマナーも身につけ、とても良い経験ができます。
- また「Enjoy Baseball」をモットーに、チームワークを高めるための親睦会も行っています。部員は明るく、野球も楽しくやっています。中学や高校で野球部員だったという人はもちろん、未経験者も大歓迎です。どのサークルに入ろうと迷っている人、野球をしたい人は気軽に練習を見に来てください。部員一同、新入生の入部を心から待っています!!

自分の気持ちや考え方を誰かに伝える。これは、私にとって人生の課題のひとつです。高校3年生から11年間、舞台に携わってきましたが、演出家の口癖は「役者の仕事は演じるのではなく、伝達することだ」でした。どんなに素晴らしいアイデアも、伝えることができなければ、無いことと同じです。

私が紹介する本は、そんな難しいテーマを、様々な切り口から説明してくれる、優しい本です。印象に残った言葉は「メディア力を上げる」でした。同じ言葉が話するとき、誰が話すのかによって、受け取られ方がまったく違う。では、話を聞いてもらえる人になるには、どうすべきなのか。そのための方法論が、筆者の経験や視点から、丁寧に述べられていました。自分の気持ちにウソをつかずに、コミュニケーションするにはどうしたらいいのか。人を説得す



山田ズーニー 著
あなたの話は
なぜ「通じない」のか
写真の一冊は
筑摩書房 刊

るには、どう話したらいいのか。ここで、すべてを語ることはできませんので、内容については、ぜひ自身で確かめてほしいと思います。最後に「話しを聞いてもらえる人」は、「話を聞ける人」だと思っています。伝えることは、本当に難しいことです。しかし、言葉足らずであっても、その人が本当に思っていることを理解するために、先入観をなくして聞く。自分が話すときは、細心の注意を払って言葉を選

話を聞いてもらえる人になるための方法論が筆者の経験や視点から丁寧に述べられています

●情報学部 情報学科 / 和泉信生 助教

ぶ。どちらも難しいことですが、いつも心に置きながら、日々の生活を過ごしていけるように努力しています。

心響の冊

This is my favorite book Series@08

紹介書籍は図書館でもクローズアップ!!

塩狩峠は天塩と石狩の境をなす峠である。この峠をJR北海道の宗谷本線が通っていて、途中に塩狩駅がある。傍らの国道を自動車でも通過すると大したことはない峠であるが、鉄道にとって塩狩峠は難所であった。この駅の傍らに、ある人物の顕彰碑と記念館・文学碑が立てられている。

1909年(明治42年)2月28日、塩狩峠に差

人間存在の意義を問いかけるこの本に巡り合えたことを私は心から感謝している

●工学部 宇宙航空システム工学科 / 猿渡敬治 助教

し掛かった列車の最後尾の連結が外れて客車が暴走しかけた時、鉄道院(国鉄の前身)職員でありキリスト教徒であった長野政雄という人物が車輪の下に身を投げ、我が身を



三浦綾子 著
塩狩峠

写真の一冊は
新潮社 刊(新潮文庫)

もって暴走を止め、乗客の命を救うという事故が起こった。この時、長野政雄氏は32歳、結婚の結納へ行く途中であった。作者の三浦綾子氏は旭川出身の作家であり、13年間におよぶ脊髄カリエスで過酷な闘病生活をされている。そして自身も敬虔なクリスチャンであり、この実話を元にして小説『塩狩峠』が書かれた。この本は主人公の生い立ちから、自己を犠牲にした壮絶な死に至るまでの至誠の人生を描いている。ややもすると殺伐とした風潮が目につきがちなこの頃であるが、このような心洗われる本に巡り合えたことを、私は心から感謝している。人間存在の意義を問いかける、重い読後感の残る本であるが、ご一読をお勧めしたい。

LOCAL AREA COOPERATION

地域との連携

崇城大学「ボランティア・パトロール隊」が発足

2009年12月18日、学生相互の安全・安心を守る「ボランティア・パトロール隊」が発足しました。この活動は池田キャンパスとその周辺のパトロールを行い、通行中の学生へ安全・安心の大切さを呼び掛けるものです。当面は、呼び掛けに応じた約20名の学生によってパトロールを行いますが、学生一人ひとりの意識の向上を図るため、多くの学生に参加を呼び掛けます。



また早々に大学の協力による「青パト」の導入、他のボランティア・パトロールとの交流なども検討しています。あわせて教職員の皆さんにも積極的な参加を求め、学生・教職員が一体となった安全・安心な「崇城大学」をめざします。



崇城大学「専門学校」からのお知らせ

SOJO COLLEGE INFORMATION

就職活動に向けての就職セミナーを実施

就職活動対策の一環として1年次生を対象に、崇城大学・濱口誠就職課長による就職セミナー「就職本番直前講座～自己PRと履歴書の書き方・会社訪問・説明会・面接対策」を実施しました。

現在、最も求められているのがコミュニケーション能力です。そのため、あらゆる会社で必ず実施されているのが面接試験であり、今回は面接についての話を重点的におこなっていただきました。

セミナーでは最初に2009年度の就職活動状況の現状および解説から始まり、あいさつやおじぎの仕方、履歴書の書き方、自己PRの書き方、志望動機の書き方などの説明がおこなわれました。



また近頃は携帯電話に企業からの伝達事項がかかってくることも多く、携帯電話の受信時の対応の練習として、学生どうしで向かい合い、電話の対応のやり取りの実習、実演などを行いました。

announce

●有限会社カブス・吉田博幸氏による進路セミナーを実施。即戦力としてのスキルと就職意識改革を早急に行うため、就職戦線で最も重要な時期の11月から4月にかけて毎月、実施しています。



崇城大学 専門学校

〒860-0806 熊本市花畑町10番25号 TEL.096-323-1122
http://www.sojo-c.ac.jp/ info@sojo-c.ac.jp